

令和3年度

南小倉中だより

学力特集号

令和3年11月5日
北九州市立南小倉中学校

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

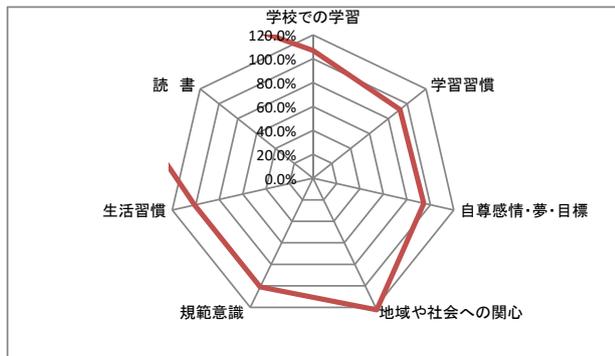
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	2019年度と比較すると(2020年度は未実施)、今年度は「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で上回り、「書くこと」、「読むこと」で下回った。また、無回答率は同程度であった。	下回った
数学	2019年度と比較すると(2020年度は未実施)、今年度は「数と式」、「関数」、「資料の活用」の領域で上回り、「図形」の領域で下回った。また無回答率は下がった。	下回った

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
読書時間の割合は、全国平均と比較し300%を超えた(グラフに入りきれていません)。
授業では、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」割合が全国平均を上回っている。
家庭学習の時間(塾なども含む)は、全国平均を下回り、特に休校日の家庭学習の時間が少なかった。
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた割合は全国平均を超えたが、「将来の夢や目標を持っている」、「自分にはよいところがあると思う」では下回っていた。そのため、自尊感情の向上やそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・補充学習の時間(ステップアップタイム)に、生徒同士の教え合い学習の形をとるなどして基礎・基本の定着を図る。
- ・各教科の授業で、自分の考えを表現したり話し合ったりする活動を継続して行っていく。
- ・単に本を読むだけでなく、内容や感想を表現する活動を増やすなど、国語科を中心に読書活動の取組を工夫する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学力向上委員会を中心に、各教科の宿題や自主学習ノートの工夫をより一層進め、効果的な家庭学習の在り方を提案する。
- ・毎月1回以上の学校通信、学年通信、学校ホームページ等で学校の取組を保護者・地域に周知する。
- ・学力の課題について校区内の小学校と共有し、小中一貫した基礎・基本内容の定着を目指した取組を進めていく。